GARDENCITYNEWS
自然と人間が共生できるまちづくり

ガーデンシティふかや推進室［ふかや緑の王国・深谷市櫛引24－2（花植木流通センター隣）］☎551－5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

深谷市誕生20周年記念・新札発行1周年記念事業

第22回 ふかや花フェスタ&オープンガーデンフェスタ

4/26㈯ 27㈰

午前10時～午後3時
会場　深谷城址公園　ほか

深谷オープンガーデンフェスタ Open Garden 私たちの庭を公開します

今年は43軒のお庭がオープン

会場では、各団体によるダンスパフォーマンスなどのステージイベント、コンテスト参加作品の展示、花の装飾や飲食・物販などの出店により、皆さんの来場をお待ちしています。

4月26日㈯・27日㈰開催！花フェスタガーデニング教室参加者募集　※参加料は当日集金（現金のみ）

当日受付の教室　各教室材料がなくなり次第終了

初夏を彩る寄せ植え

初夏を彩る草花の中から、5種類選び寄せ植えをします。花の特徴や組み合わせ方などをアドバイスします。
参加料　2,000～2,500円
講師　星野学氏（テクノ・ホルティ園芸専門学校非常勤講師）

多肉植物を楽しむ・寄せ植えワークショップ

ぷくぷくかわいらしい多肉植物を、素敵な雑貨に寄せ植えしましょう。雑貨は、金額の違う数種類から選べます。
参加料　500～2,500円程度
講師　La*pensee（グリーンアドバイザー）

フラワーミニリースづくり

ドライフラワーなどを使って、日ごろの感謝の気持ちを込めたミニリースを作りましょう。母の日にもピッタリです！
定員　各日50人　　**参加料**　800円
講師　善本由紀氏、中村美穂氏（㈱日比谷花壇）

事前予約制の教室

ギャザリング体験会

とき　各日午前10時～11時30分、午後1時30分～3時
定員　各回10人　　**参加料**　4,000円
講師　森田眞樹氏（深谷ギャザリング教室主宰）
申し込み　4月7日㈪午前10時から、申し込みフォーム（右記QRコードからアクセス）に入力

ハンギングバスケット協会埼玉支部主催教室

とき	内容	参加料
各日午前10時～	季節の草花の寄せ植え	2,800円
各日午後1時～	初夏のハンギングバスケット	3,500円

定員　各回15人
申し込み　4月7日㈪午前10時から、ショートメッセージサービス（SMS）で、中島さん（090－8893－2803）へ、参加希望日時・氏名・電話番号・人数を送信　※後日、参加の可否が返信されます

公共交通機関の利用にご協力ください

当日は、会場周辺道路の混雑が予想されます。また会場周辺の駐車場（深谷市民文化会館、深谷公民館、深谷市役所）には限りがあるため、来場の際は、電車や深谷市消防本部駐車場からのシャトルバスなどをご利用ください。

無料シャトルバス（30分間隔）
区間　深谷市消防本部駐車場～深谷城址公園

無料トゥクトゥク（随時）※雨天運休
区間　レンガ通り濱岡屋付近～深谷城址公園

～オープンガーデン巡りにぜひご利用ください～

深谷オープンガーデンブック2024販売中

販売場所　花フェスタ会期中＝花フェスタ会場・オープンガーデン臨時案内所（JR深谷駅北口）、通年（土・日曜日、祝日、年末年始を除く）＝ふかや緑の王国
料金　1冊500円
問い合せ　深谷オープンガーデン花仲間 栗原さん（090－7183－3481）

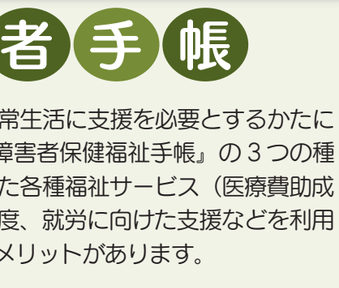
『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、X（旧ツイッター）（@garden5551）、『ガーデンシティふかや』フェイスブックもご覧ください。

知っていますか？障害者手帳

障害者手帳とは、何らかの障害によって自立が困難なかたや日常生活に支援を必要とするかたに対し交付される手帳で、『身体障害者手帳』・『療育手帳』・『精神障害者保健福祉手帳』の３つの種類があります。障害者手帳を取得すると、その種類や等級に応じた各種福祉サービス（医療費助成や手当、自動車等燃料費の補助、居宅介護など）や、各種割引制度、就労に向けた支援などを利用でき、生活の幅が広がったり、社会に参加しやすくなったりするメリットがあります。

手帳名	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
内容	身体障害者福祉法に定める障害程度に該当すると認定されたかたに交付	知的障害があると判定されたかたに交付	一定程度の精神障害の状態にあることを認定されたかたに交付
等級	1～6級	Ⓐ（最重度）～C（軽度）	1～3級　※有効期間2年
手続き	指定医が記入した身体障害者手帳用の診断書を持参し、障害福祉課（市役所本庁舎7番窓口）または各総合支所市民生活課へ	母子健康手帳、成績通知書などを持参し、障害福祉課（市役所本庁舎7番窓口）へ ※書類作成のための聞き取りを行うため、できる限り本人と幼少期の様子が分かるかたが来庁してください。	かかりつけ医が記入した精神障害者保健福祉手帳用の診断書または障害年金証書などを持参し、障害福祉課（市役所本庁舎7番窓口）または各総合支所市民生活課へ

問障害福祉課（☎571－1011、FAX574－6667）



栄一の母『えい』の慈愛の深さ

「あんたがうれしいだけじゃなくて、みんながうれしいのが一番なんだで」と、渋沢栄一が主人公の大河ドラマ『青天を衝け』の中で、母えいは幼少期の栄一に諭すように語りかけます。

えいは『中の家』で生まれ、幼い頃からよく両親を手伝い、働きました。物を大切にし、自分では粗末な物を使い、人には良いものを用意しました。

人に物を施すことが好きで、貧困や病気を患い困っている人を見ると、涙を流して寄り添い、敬遠せずに着物や食事の世話をしたといいます。その慈愛の深さには、時に、夫の市郎右衛門があきれるほどでした。

後に栄一が、実業界で活躍するのと同時に多くの福祉事業にも尽力したのは、慈愛の深い母の影響が大きかったといえます。

特に、身寄りがないこどもや困窮した人たちを保護していた当時の東京市養育院で、栄一は明治12（1879）年から亡くなるまでの約50年にわたり、院長を務めました。困った人を見ると放っておくことができない母の心が、栄一に根付いていたのではないでしょうか。

えいは、晩年には東京の栄一の邸宅へ行き来し余生を楽しんでいましたが、明治7（1874）年に栄一の傍らで息を引き取りました。いつも周りの人たちに気を配っていたえいにとって、長い間離れて暮らしていた栄一と一緒に過ごした束の間は、この上なく大切な時間となったことでしょう。

▲えいをしのび旧渋沢邸『中の家』に建つ『先妣渋沢氏招魂碑』